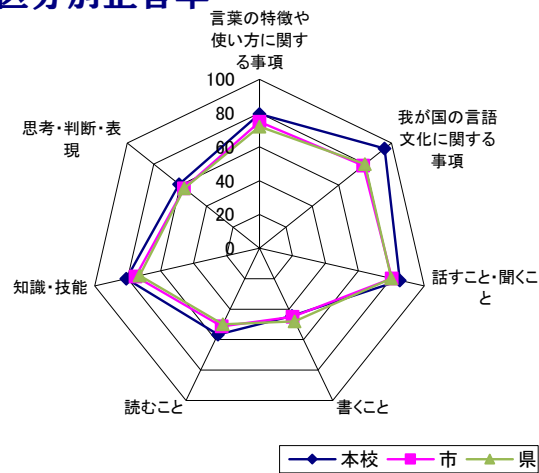


宇都宮市立今泉小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	94.6	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	85.2	80.4	80.0
	書くこと	44.4	45.1	48.0
	読むこと	56.7	51.3	50.0
観点	知識・技能	80.8	75.2	72.8
	思考・判断・表現	60.8	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

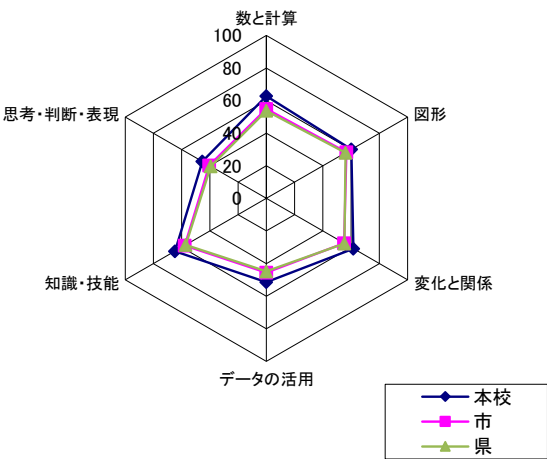
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を4.7ポイント、県の平均を7.5ポイント上回っている。 ○文を読み、様子を表す語として適する語を選ぶ問題や、熟語の漢字の組み合わせの種類が同じものを選ぶ問題の正答率は、どちらも90%を超えており、よく理解できていることが分かる。 ●文の中における修飾語と被修飾語の関係を捉えることができるかをみる問題の正答率は市や県の正答率と同等程度だった。特に、連用修飾語を選ぶ問題の正答率は15.1%で、全体の中で一番低い正答率で十分定着していないことが分かった。	・修飾語の理解が十分ではないことから、教科書で修飾語についての学習をする時間以外にも、日常的に文の成り立ちについて理解が深められるよう指導を工夫していく必要がある。朝の学習の時間を活用し、プリント学習やドリル学習などを繰り返し行うことで定着を図っていく。 ・文を書くときに、修飾語と被修飾語の関係を意識して正しい文が書けるように指導していく。
情報の扱い方に関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均を10ポイント以上上回っている。 ○慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかをみる問題の正答率は94.6%で、市や県の平均を10ポイント以上上回っており、慣用句についてよく理解できていることが分かる。	・慣用句やことわざなど、普段の授業ではなかなか扱うことが少ないものについては、朝の学習や家庭学習を中心に継続的に学習を進めることができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均を約5ポイント上回っている。 ○4問全てで市や県の平均を上回っている。特に、話し手の工夫を捉えたり、話し手が伝えたいことの中心を捉えたりする問題の正答率は、90%を超えている。 ●どちらがよいと思うかについて、自分の考えを理由を挙げながらまとめる問題の正答率は86.0%で、市や県の正答率を上回っているが、2文目以降に自分の考えや理由を書くという条件を満たしていない割合が高かった。	・話し手が伝えたいことは何かを考えて聞くことができるよう日常的に指導していく。また、聞いて終わりではなく、感想を伝えたり、共感したり、質問したりする活動を意図的に設けることで、考えながら話を聞くという習慣を身に付けられるようにする。 ・簡潔に考えを伝えるために、初めに自分の考えを伝え、次に理由や根拠を述べるということを繰り返し指導していく。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均を下回っている。 ●アンケート結果について読み取ったことを1つ目の段落に書く問題では、読み取ったことを書くことはできているが、1つ目の段落に書くことができていない児童の割合が12.9%と高かった。また、2段落構成で書くことができるかみる問題の正答率も39.8%で市や県の平均を下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことができるかみる問題の正答率は50.5%で、市や県の平均を下回っている。	・段落や基本的な文章構成などを繰り返し指導することで、書くことの基本的な知識技能を身に付けることができるようにする。 ・書くことの単元に限らず、朝の学習や家庭学習など短い文を書く活動を日常的に行う。 ・授業のまとめや振り返りなどを書くときに、条件を与えたり文字数を指定したりするなど、端的にまとめる力が身に付くよう工夫して指導する。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均を5ポイント以上上回っているが、他の領域に比べると平均正答率はやや低い。 ○登場人物の行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ問題の正答率は、83.9%で市や県の平均を10ポイント以上上回った。 ●物語文で登場人物の気持ちの変化について説明した文の空欄に適する言葉を書いたり、説明文で文章の内容をまとめた文の空欄に適する語を書き抜いたりする問題の正答率は市や県の平均を上回っているものの、50%程度と他の問題に比べて低い。 ●説明文で、段落の内容ごとのまとまりの分け方として適するものを選ぶ問題の正答率は26.9%で市や県の平均を大きく下回った。	・読書活動の充実を図り、様々なジャンルの本に触れることができるよう指導を工夫する。 ・物語文の学習では、文の叙述に着目し、登場人物の気持ちや場面の様子について根拠をもって考えをまとめることができるよう指導していく。 ・説明文の学習では、段落ごとの内容の読み取りだけにとどまらず、全体の構成や段落のつながりに着目しすることができるよう繰り返し指導していく。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.8	54.9	53.7
	図形	60.2	56.6	56.1
	変化と関係	61.6	55.1	55.2
	データの活用	51.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	64.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	45.3	40.6	39.5



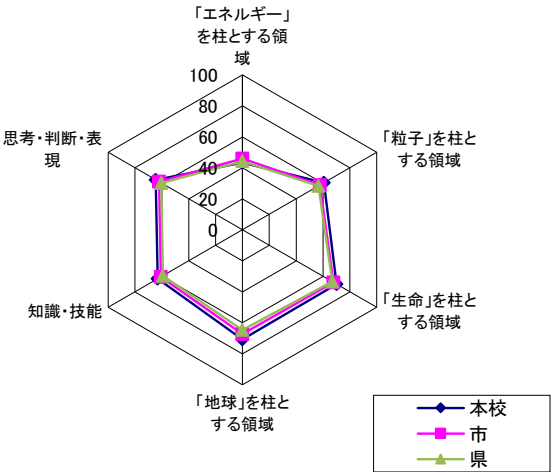
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を7.9ポイント、県の平均を9.1ポイント上回っている。 ○大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題の正答率は88.2%で、市や県の平均を上回っている。 ●除法の性質を利用した計算のくふうについて説明する問題の正答率は、市や県の平均を上回っているが、28.8%で低く、課題があると言える。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も算数的な言葉への理解を深めるために、数直線や図などを使い、考えを可視化しながら指導をする。 ・日頃の授業から、自分の考えを説明する時間を多くとり理解が深まるように努める。 ・基礎基本の定着を図るために、繰り返し問題を解いたり、既習内容を生かしながら考えたりする機会を多く設ける。
図形	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント、県の平均を4.1ポイント上回っている。 ○直方体の面に垂直な辺をすべて答える問題は、市や県の平均を上回っており、立体の辺と面の位置関係を正しく理解している児童が多いと考えられる。 ●平行四辺形を作図をする問題は、市の平均は上回っているが県の正答率を2.7ポイント下回っている。また、正答率は43.0%と半分を切っていることから、作図の仕方が定着していないと言える。	・数量感覚を身に付けるために、身の回りの物の長さや重さの見当をつけるなど、普段から自分の生活と算数の学びを結び付けて考えられるよう指導する。 ・分からない大きさであっても、具体的な数値を用いておおよその大きさを求めるなど、既習内容を生かして答えを導き出せるような活動を取り入れるなど、指導を工夫する。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を6.5ポイント、県の平均を6.4ポイント上回っている。 ○表を横に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることができるかを問う問題は、市の平均を3.4ポイント、県の平均を2.4ポイント上回っている。 ○表をたてに見ることで、2つの数量の変化の割合を求める問題は、市の平均ポイント14.5ポイント、県の平均を13.1ポイント上回っている。 ●割合を使った比べ方について説明する問題は、市や県の正答率を上回っているが、正答率が32.3%で、変化と関係の領域の中で最も低く、課題があると言える。	・2つの数量の関係を見比べ、変化の様子を見立てて考えることは、理解が高い。今後も2つの数量の関係を見比べ、想像し考えを深めていく指導を進めていきたい。 ・伴って変わる2つの量の関係を式に表すことについては、2つの量の関係の変化がどのような関係があるか適切な式に表して考えることができるよう、式を立てるまでの流れを視覚的に示し、問題の指し示す意味や求めるべき内容を児童が理解できるよう指導を工夫する。
データの活用	平均正答率は、市の平均を5.9ポイント、県の平均を6.6ポイント上回っている。 ○グラフから必要なことを読み取る問題は、市の平均を7.3ポイント、県の平均を9.9ポイント上回っている。また、複合グラフから傾向を読み取る問題は、市の平均を9.9ポイント、県の平均を9.4ポイント上回っている。このことから、データを正確に読み取ることができる児童が多いと考えられる。 ●グラフから読み取った数値を示し、変化の様子を説明する問題の正答率は8.6%で、全体の中で最も低い正答率だった。無回答率も33.3ポイントと高いことから、今後の課題であると言える。	・グラフから読み取ったことを説明することができるよう、データの特徴を捉え考察したり、データから見いだしたことを根拠となる数に着目して表現したりする時間を多く設定する。 ・日頃から、根拠を明確にして自分の考えを説明することができるよう、言葉や数を使って簡潔に説明する機会を多く設ける。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	43.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	60.7	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.1	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	70.7	67.2	64.6
観点	知識・技能	63.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	64.6	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント、県の平均を0.9ポイント下回っている。 ○電流の大きさが同じ回路を選ぶ問題では、市や県の平均を上回っており、並列つなぎの回路に流れる電流の大きさが乾電池一つのとときと同じであることを理解している児童が多い。 ●並列つなぎの名称答えるを問題では、市や県の平均を大幅に下回っており、乾電池のつなぎ方と名称の理解について課題があると言える。	・電気に関する学習に対して意欲が高い児童が多いので、実験で身に付けさせたい基本事項をしっかりと押さえて実験に取り組ませ、理解を深められるようにする。 ・簡易検流計の使い方や特徴について、事前にきちんと確認したうえで実験に取り組ませ、理解の定着を図る。また、積極的に使う機会を設定し、5年の電流計の学習につなげていきたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均を3.0ポイント、県の平均を4.1ポイント上回っている。 ○空気と金属をあたためたときの体積の変化の大きさを答える問題では、市の平均を7.7ポイント、県の平均を9.8ポイント上回っており、温度による空気と金属の体積の変化を理解している児童が多いと言える。 ●湯気と水蒸気の違いについて理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を0.2ポイント上回っているが、市の平均を1.2ポイント下回っており、課題があると言える。	・金属の体積変化に関しては、実験の結果や考察から分かったことと日常生活での現象をしっかりと結び付けて理解することができていた。今後も、実験・観察を通して分かったことと身の回りで起こる現象についての関連を教師から補足説明するよう心掛け、科学的な見方を養っていく。 ・ものの温まり方の実験では、教科書の実験だけではなく発展的な課題として他の方法を試したり、動画を活用したりして、多面的に現象を捉えられるよう工夫する。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を2.3ポイント、県の平均を3.2ポイント上回っている。 ○ヒョウタンののびを正しく表したグラフを選ぶ問題は、市や県の正答率を10ポイント以上上回っており、夏の植物の成長について正しく理解している児童が多いことが分かる。 ●冬の季節の記録を選ぶ問題では、市の平均を7.4ポイント、県の平均を6.9ポイント下回っており、季節ごとの動物の活動についての理解に課題が見られる。	・学習した内容が身近な生活や社会の中でどのように生かされているのかを考えることで興味をもって主体的に学習に取り組むことができるようにし、より一層理解が深まるようにする。 ・身近な自然を観察する時間を十分確保するとともに、デジタル教科書や動画の視聴などを通して、自分たちでは経験できない実験や観察の疑似体験を多くさせることによって知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市の平均を3.5ポイント、県の平均を6.1ポイント上回っている。 ○排水溝が低くなっている理由を選ぶ問題は、市や県の平均を10ポイント以上上回っており、水の流れについて身近な出来事と関連付けて考えることができる児童が多いことが分かる。 ●星の色に違いがあることを答える問題では、県の平均を1.3ポイント上回っているが、市の平均を1.7ポイント下回っており、知識の定着が不十分な点が見られた。	・今後も実験や観察の後に考察を検討し合う場を設け、科学的な視点で根拠を示しながら論理的な説明をし合う活動を多く取り入れる。 ・身近な事象の正答率は高いことから、積極的に実験や観察に取り組めるように学習環境を整える。 ・太陽や月・星の動き方については、動画やプラネタリウムなどの活用を促し、更なる理解の定着を図っていきたい。

宇都宮市立今泉小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」と肯定的に回答した児童の割合は70.8%で、市の平均より2.5ポイント、県の平均より2.3ポイント高い。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」と肯定的に回答した児童の割合は80.2%で、市の平均より8ポイント、県の平均より12.2ポイント高い。今後も、勉強をしていく中で、分からないことは本や一人一台端末などを使用しながら進んで調べ、問題解決できるよう指導していく。

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」と肯定的に回答した児童の割合は67.7%で、市の平均より5.9ポイント、県の平均より2.8ポイント高い。今後も、授業の復習やテストなどでまちがえた問題をやり直すなど、勉強の方法について、継続して指導していく。

○「毎朝、朝食を食べている。」と肯定的に回答した児童の割合は99%で、市の平均より4.2ポイント、県の平均より4.7ポイント高い。また、「早寝、早起きを心がけている。」と肯定的に回答した児童の割合は82.3%で、市の平均より4.4ポイント、県の平均より5.7ポイント高い。これらの結果から、基本的な生活習慣の定着が伺える。高学年になり、習い事や趣味に費やす時間が増えていくことが予想されるため、今後も「早寝・早起き・朝ごはん」のキャッチフレーズのもと、生活習慣を整えていけるよう支援する。

○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と肯定的に回答した児童の割合は84.4%で、市の平均より8.7ポイント、県の平均より9.8ポイント高い。身近な問題を授業の中で話題にしたり、学習の中で地域の魅力を調べてまとめたりしている成果が表れている。今後も、身近な問題について話し合い、考えを伝え合うような活動に取り組んでいきたい。

●「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」と肯定的に回答した児童の割合は76.1%で、市の平均より7.3ポイント、県の平均より5.6ポイント下回っていた。児童が興味関心をもって学習に臨むことができるような授業を展開していきたい。

●「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と肯定的に回答した児童は92.7%で、市の平均より4.3ポイント、県の平均より2.7ポイント下回っていた。今、学習していることが自分の将来に活かすことができるということを児童が意識できるように声掛けをしていきたい。

●「むずかしいことでも、失敗をおそれないで挑戦している。」と肯定的に回答した児童の割合は66.6%で、市の平均を9.2ポイント、県の平均を9.8ポイント下回っていた。日常生活の中で、勇気を出して挑戦することの大切さと、失敗体験は必ず自分の力になることを伝えていく。